

県境を越え
心をつなごう
東日本大震災

福島避難者に そば振る舞う

那須でNPO法人

【那須】東日本大震災による福島県からの避難者約50人が滞在する町スポーツセンター



振る舞われたそばや天ぷらを食べる避難者たち

隣の町文化センターで「アート・ピオトープ」21日、東京のNPO法「北山ひとみ理事長な

どが避難者に手打ちそばを振る舞った。

同法人は芸術など地域文化の振興を目標に活動。町内に拠点施設を持ち「被災者のために何かできることはないか」と、スタッフ間で付き合っている地元「そば同好会」(藤秀会) (山中秀人会長)に協力を呼び掛けた。

西団体から計約15人のスタッフが参加。25分のそば粉などを使い、約30人の避難者にうちたての盛りそばを提供した。

栃木県に定住を考えているという福島県いわき市の今藤ひろみさん(50)は「こしがあっておいしい。そば

の炊き出しは初めてです」と笑顔をみせていた。

同法人の木下澄人(58)は「今後も地元や周りの人と支え合う活動を続けたい」と話している。

下野新聞 4月24日掲載